

第6B(中)分科会 一副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題―

提案主題 学校の特性に応じた教頭職の在り方
～組織活性化を共通課題とした実践交流会を通して～

司会者	日田市立大明中学校	坂本 篤 弘
提言者	日田市立北部中学校	伊藤 智恵美
助言者	義務教育指導班課長補佐(総括)	姫野 悟
記録者	日田市立南部中学校	中野 照行

1 討議の柱

- ・学校の特性に応じて、教頭は教務主任の役割の明確化やミドルリーダーの育成をどのようにすすめるか。

2 協議の実際

(1) 教務主任の役割の明確化と教頭のかかわりについて

- ・校種、学校規模、年齢、また授業時数など各学校の実情に応じて、教務主任の役割は変わってくる。年度当初に教頭と教務で分担を確認したり、教頭が年間の見通しを示していったりする等、よりよいやり方、見直しと改善を図っていく必要があるであろう。
- ・教務主任一人が動く(抱え込む)のではなく、教務主任を核に組織的な体制で取り組むことを意識して運営していくことが大切である。

(2) ミドルリーダーの育成について

- ・教頭として、教職員一人ひとりの持ち味を生かす助言はどうあればよいかを工夫していくこと、また一定の責任と権限を与えていくことが必要であろう。良い面は積極的に評価し、気になることについては、的確に指示・アドバイスをしていかなければならない。
- ・難しい仕事は一人に預けることなく、意図的にリーダーを核として組織で対応させていくことが、全体のレベルアップにつながっていくのではないだろうか。

3 指導助言

- ・校種・規模・教職員の年齢層によって、教務の職務内容は異なる。今回の実践交流において、各学校の実態を知り合うことができたことはよい取り組みであった。
- ・教務主任という分掌がようやく市民権を得た(理解され始めてきた)。教務主任研修会の受講の空気・雰囲気が変わってきている。しかし、福岡県等に比べるとまだまだ歴史は浅い。教務主任のやる気を育て、組織的な対応をいかに円滑に推進していくか。また、運営のより良い方法を推奨し、併せて見直しをいかに行うかが大分県の課題でもある。
- ・学校教育目標の達成のために、いかに教育活動を推進していくかの「教育計画」の立案づくりは、教務主任の欠かすことのできない仕事である。
- ・各学校においては、更なる目標の共有が求められる。併せて、結果責任を果たすためのツールとして「4点セット」や「目標管理」を生かしながら、組織的にミドルリーダーの育成をはかっていただきたい。